

合理的配慮を考える

R5, 5月11日

釧路市立芦野小学校校長 高島 昌之

～ インクルーシブとは？ ～

テレビで「インクルーシブ公園」が放送され話題になっていました。「インクルーシブ」とは、「包括的」という意味で、障害がある人もない人も子どもも大人も高齢者も、言葉が通じない外国の人も含めてあらゆる人が一緒に活動できるような環境や関わり方を整えていくことを目指すものです。テレビでは、車いすの子も遊べる砂場や身体の大きさや不自由さに左右されない滑り台などが紹介されていました。統一したものに周りが合わせるのではなく、個に合わせた配慮を互いに認め合って「折り合い」を見つけていく作業を「合理的配慮」といいます。芦野小学校では、「やれないのか やらないのか」を見極めながら、目指す姿を示して、今、その子にできるやり方を認めて取り組む「合理的配慮」を試行しています。

～ 合理的配慮を意識した教育活動 ～

インクルーシブ教育やユニバーサルデザイン教育などと呼ばれる合理的配慮を意識した教育環境や授業、生徒指導などがたくさんの研究会や講演会で情報発信されています。一斉指導や同一の環境で進められてきた日本の教育は、大きな変化を求められています。脳は、所属する集団に悪影響を与えそうだと判断した人を排除しがります。これは、集団を維持することで命を守ってきたことを大昔からの遺伝情報の伝達で脳が覚えているからだといわれています。「発達障害」や「アレルギー」などの説明をいくらしても、集団の存続を脅かすものとして「わがまま」や「おおげさ」だと無理解と非受容をしてしまう声は少なくありません。インクルーシブの「合理的配慮」は、財産や気持ちを傷つけたり踏みにじるものでないのであれば、「様々な考えやかたち」を受け入れる。また、他の人の大きなストレスにならないのであれば、不利益になりやすい人に合わせた環境設定をしていくという考えです。

裏面に資料あり

～ 化学物質過敏症について ～

「化学物質過敏症」とは、極微量の化学物質に反応することによって生じる健康被害を言います。特定の化学物質に過敏に反応する場合（シックハウス症候群など）は、物質そのものを避ければ、ある程度の学校生活は可能です。しかし、多種類の化学物質に過敏な場合は、予防的な取り組みでは対応できないこともあり、個人差も大きいため周りに理解と協力が得られず、学習に困難をきたしているケースがあります。

本校にも「化学物質過敏症」と向き合っているご家族がいます。困り感をしっかりと聴いたうえで、校内で変えられるものは変えていきたいと考えております。給食台拭きのスプレーとかトイレ清掃の洗剤など変更を図っております。合理的配慮を行う「インクルーシブ」は、「当たり前」は人によって違うこととそれぞれの「当たり前」を知ることから始まります。裏面に「化学物質過敏症」の詳細が書いてある資料を載せているので、是非、読んでみてください。